

名原会ニュース

No.19

平成 15 年 9 月 1 日

会員の方々へのお知らせ・ご案内がございましたらお寄せ下さい。
名原会ニュースに掲載いたします。ご寄稿もお待ちしております。

特別寄稿 2

ご挨拶
桐谷 道雄 先生のこと

水谷 良亮
井関 道夫

活動報告 4

名原会総会報告 / 「卒業生との集い」報告 / ホームページの更新について / 会費納入のお願い / 工学部・工学研究科同窓会名簿の販売 / 名簿記載内容の変更・訂正 / 宛名ラベルの提供 / 名原会ニュースへの掲載募集

教室の近況 5

職員の移動 / 21 世紀 COE プログラムに採択

研究室便り 6

会員の声 9

新任のご挨拶
UEFA ? UAEF??
光歳時記
はじめまして

山澤 弘実
加藤 善久
影山 一巳
岩崎 航太

核院会便り 12

お知らせ 13

各種証明書類の請求

編集後記 13

特別寄稿

ご挨拶

名原会会長
水谷 良亮
(中部電力㈱原子力管理部)
(昭和 45 年卒)

昨年度から、名古屋大学工学部原子核工学科の同窓会「名原会」の会長をお引き受けすることになりました昭和 45 年卒業の水谷でございます。

これまで、名原会の活動を横で見ながら、お金で解決できるならそれで協力しようといった程度の関わり合いでございました。お話しを伺ったとき、戸惑ったのが実情でございます。名古屋大学原子核工学科として卒業生を送り出して 34 年、名原会は、他の学部・学科に比べて歴史は浅いとは言え既に 1100 名を超える会員を擁していると事務局からお聞きしました。

先日の名原会総会で、名原会は魅力に乏しいとのご指摘がありました。自分の関心の低さを言い訳するようですが、これまで私自身も同様の感想を持っていたことも確かです。同窓会主催で何か企画したらどうかとのご意見も頂きました。総会でご指名頂き、会長をお引き受けすることが大変責任重大なことであり、身の引き締まる思いが改めて致しております。まことに微力ではありますが、一所懸命の努力をしていく所存でございます。皆さまのご指導、ご鞭撻をよろしくお願い致します。

さて、「原」と名の付く何かを学ばれて、社会人として直接あるいは間接的に「原」に係わっておられる方が会員には多いことと思います。「原」は今、逆風の中を漂っているようです。私も「原」と名の付く「原」子力発電に携わっております。平成 11 年は軽水炉関連ではありませんでしたが JCO 事故、一昨年からの浜岡の一連の事故、昨年 8 月には自主点検記録の不適切な取り扱いと大変お騒がせしております。何が欠けていたのでしょうか。

学生の頃、松本研究室では「ものづくり」の大切さを、また、発電所では、刑事の捜査ではありませんが「情報は現場から、現場に戻れ」と叩き込まれました。自主点検問題発生後にお会いした金川先生からは「馬鹿正直になれないなら聴かなくて良いと講義の始めに断わった」とのお話しを伺いました。「危険な原子力を負託された者として、愚直に現場で物に向き合うべき」で、それが十分出来ていなかったのではないのでしょうか。そんな気持ちで原子力発電の信頼回復に取り組んでいることをご報告してご挨拶とさせていただきます。

以 上

桐谷 道雄 先生のこと

井関 道夫（愛知学泉大学）

平成14年の年の瀬も押し詰まったある日のこと、桐谷先生は何時ものように車に乗って奥様と買い物と、趣味にしておられた魚釣りの場所の視察に出かけられた。あまり気分が優れなかったご様子で奥様の買い物にもつきあわず、駐車場の車で待っておられた。買い物を済ませた奥様が車に戻ると、どうも変であった。ドアがちゃんと閉まってないのである。「これは普通ではない」と感じられた奥様は、原爆病院に向けて車を走らされた。『オイ、道が違うぞ！』の言葉にも耳を貸さず、病院に直行され診察を受けられた。

病状はもう手が付けられない状態になっていた。肝臓ガンは転移しないと高を括っていたのが仇となった。それまで先生は非常にお元気であったが、満身創痍で五臓六腑ことごとく爆弾を抱えておられた。この年も肝臓ではなく2度にわたって入院されている。しかし、あの強靱な精神力で病院に通いつつも病を克服され、精力的に研究生活を続けておられた。8月には古希のお祝い会もあり、多数の仲間が参加したばかりである。

私がお病気を知ったのはお正月の6日であった。すぐにもお見舞いに伺いたかったのだが、先輩から「誰にも会えない状態であること」、「行かないでくれ」であった。それより、いざという時のための準備を進めるように、とのことであった。

非常に複雑な気持ちで幾日かが流れた。『ひょっとしたら回復するかもしれないな？』そんな気持ちを抱いた1月23日に訃報を受け取った。御歳70歳。直接の病名は「原発性肝臓癌」であった。入院されてから1ヶ月も経たなかった。まさしく「壮絶な死」である。

桐谷先生は名古屋大学を退官され、すぐさま広島工業大学工学部にお移りになり、大学院生を指導される傍ら、翌年には最終講義で話されたペンチ1本で出来る高速変形機構研究を柱に、文部省の協力を得てフロンティア研究拠点「高速塑性変形研究センター」をお作りになった。建屋内には高速変形装置や2台の高性能電子顕微鏡を含む様々な装置が並ぶ白塗りの三階建である。以来この6年間、外国や全国から大勢の研究者が結集して様々な変形研究が数多く行われ、実に200編近い論文が発表された。そして、この4月には日本金属学会年会においてその特集が組まれ、数多くの研究発表があった。しかし、その場に先生のお姿は勿論無く、同時にはっきりと言い切られるお声もなかった。誠に無念至極である。

先生はこの4月から教学を離れられ、研究センター1本で活躍される予定であった。やっと時間を得、ご研究の集大成をお計りになろうとしていた矢先であり、遣り残された仕事を考えると、ご本人にとって誠に無念であったろうと想像する。

同窓生の皆さんに、このような形で先生のお消息を伝えるのはまことに残念であるが、致し方ない。いまとなつては、只々心からのご冥福を祈る次第である。（平成15年5月）

活動報告

1. 名原会総会報告

去る平成 14 年 10 月 26 日(土) 愛知厚生年金会館にて、名原会総会を開催いたしました。新役員および会計報告が承認されました。

会 長	水谷 良亮	(昭和 45 年卒、中部電力株式会社)
副会長	中川 和道	(昭和 47 年卒、神戸大学)
	曾田 一雄	(昭和 52 年卒、名古屋大学)
幹 事	山根 義宏	(昭和 48 年修卒、名古屋大学)
	柴田 理尋	(昭和 63 年修卒、名古屋大学)
	瓜谷 章	(昭和 59 年卒、産業技術総合研究所)
	有田 裕二	(平成元年卒、名古屋大学)
	柚原 淳司	(平成 3 年卒、名古屋大学)
	森泉 純	(平成 3 年卒、名古屋大学)
	小林 登	(平成 4 年卒、名古屋大学)
	渡辺 将人	(平成 7 年卒、中部電力)
	渡辺 賢一	(平成 9 年修卒、名古屋大学)

支部長

東京	北野 照明	(昭和 48 年卒、三井造船)
中部	若山 靖記	(昭和 62 年卒、中部電力)
関西	占部 逸正	(昭和 47 年卒、福山大学)

2. 「卒業生との集い」報告

去る平成 15 年 3 月 10 日(月) 原子核工学教室との共催で本学共同教育研究施設 2 号館 8 階会議室にて、「卒業生の集い」が開催されました。その後、シンポジオン・ユニバーサルクラブにて卒業生・在校生参加の懇親会が開かれ、様々な意見交換が行われ、盛会となりました。

3. ホームページの更新について

平成 13 年度、名原会ホームページを立ち上げました。ぜひ、ご覧ください。ホームページに掲載希望の記事等がございましたら、幹事までご連絡ください。

<http://www.nucl.nagoya-u.ac.jp/meigenkai/>

4. 会費納入のお願い(重要)

昨年度より、会費納入方法を変更させていただいております。卒業生各位との連絡を密にとりたいとの観点から、毎年 1,000 円ずつ会費納入をお願いいたします。会費を納入していただいた方には本年度発行(3年に一度改訂)の名簿をお送りします。

5. 平成 14 年度版工学部同窓会名簿の販売について

名古屋大学工学部・工学研究科同窓会名簿は 4 年に一度発行しております。現在、最新版

は平成 14 年度版であり、本版より、CD-ROM 版も準備しております。購入をご希望の方は、名原会幹事までご連絡下さい（価格、冊子版：1,500 円、CD-ROM 版：1,200 円、送料込み）。

6. 名簿記載事項の更新・訂正

随時、名原会名簿の改訂を行っています。記載事項に訂正のある方はご連絡下さい。葉書、FAX のほか電子メールでもお受けいたします。また、公開ホームページ（<http://www.nucl.nagoya-u.ac.jp/meigenkai/>）にも、名簿記載内容変更フォームを開示していますので、ご利用ください。

7. 宛名ラベル提供

宛名ラベルの提供を有償で行っております。ただし用途は同窓会あるいは学科、研究室に関する活動に限ります。費用につきましては人数等で異なりますのでご相談下さい。

8. ニュース掲載記事募集

勤務先や住所変更等、また催し物などについて会員にお知らせしたい方は名原会までご連絡下さい。年に 1 回の発行ではありますが、名原会ニュースに掲載してお知らせいたします。

教室の近況

1. 職員の移動

岩崎 航太	助手に就任（エネルギー機能材料工学講座）	（平成 14 年 10 月 1 日）
森田 健治	定年退官	（平成 15 年 3 月 31 日）
長崎 正雅	教授に昇任（先端のエネルギー源材料講座）	（平成 15 年 4 月 1 日）
山本 章夫	助教授に就任（中性子系制御工学講座）	（平成 15 年 4 月 1 日）
津島 悟	助教授に就任（核燃料サイクル工学講座）	（平成 15 年 4 月 1 日）
袖原 淳司	助教授に昇任（核燃料管理施設）	（平成 15 年 4 月 1 日）
田辺 哲朗	配置換え（エネルギー材料化学講座）	（平成 15 年 4 月 1 日）
武藤 俊介	配置換え（エネルギー材料化学講座）	（平成 15 年 4 月 1 日）
吉田 朋子	配置換え（エネルギー材料化学講座）	（平成 15 年 4 月 1 日）
松波 紀明	配置換え（先端のエネルギー変換材料講座）	（平成 15 年 4 月 1 日）
柴田 理尋	配置換え（アイソトープ総合センター）	（平成 15 年 4 月 1 日）
吉田 朋子	助教授に昇任（エネルギー材料化学講座）	（平成 15 年 7 月 1 日）

2. 平成 15 年度 21 世紀 COE プログラムに採択

平成 15 年度 21 世紀 COE プログラムに、原子核工学教室が主体となった「同位体の拓く未来」が採択されました。

<http://www.nagoya-u.ac.jp/study/coe/coe6.html>

研究室便り

[講座名]

Tel/Fax 052-789-XXXX 担当教官 (: 教授、 : 助教授)

[中性子系制御工学講座]原子核第1講座

4681/3608 山根 義宏 山本 章夫 玉置 昌義 北村 康則

中性子の時間・空間的な挙動および相関現象に着目し、実験・理論・大規模計算機シミュレーションを駆使して新しい原子核エネルギーシステムの構築を目指します。

「卒業生へ・・・」

本研究室の構成は山根義宏教授、北村康則助手、M2が3人、M1が3人に加え、今年度から山本章夫様に助教授として来て頂きました。共同研究の参加や学外実習に行く等、精力的に外部とやり取りをしております。

[エネルギー材料化学講座] (原子核工学専攻第2講座)

5157/5177 田辺 哲朗 武藤 俊介 吉田 朋子

核融合エネルギーを、現実のエネルギー源とするため、プラズマ対向壁制御によるプラズマ閉じ込めの改善、プラズマと壁の動的相互作用の解明、超高温材料の開発、材料の照射損傷解明と制御、原子力エネルギー廃棄物の有用なエネルギーへの変換など、超高温熱物理化学とも言うべき新しい学問領域に日々挑戦しています。

「卒業生へ・・・」

眼にまぶしいほどの朝焼けを受けながら迎える雑誌会の朝。数日間にわたる自らの仕事に対する達成感と、これから体験するであろう惨劇への不安が、心の奥底に眠っていたマゾヒズムを心地よく揺さぶり始める。それは加速度を感じながら下半身に感じるあのスリルによく似ている。それが田辺研。そう我々は田辺研。そのときそう感じる、田辺研ここにあり。まもなくあの朝焼けは我々の記憶の中だけのものになる。そして新しい記憶を求め、我々は六号館へ移動する。有難う理工総研、ごっつんこ原子核。

[原子核計測学講座] (原子核工学専攻第3講座)

4680/5127 井口 哲夫 河原林 順 渡辺 賢一

光、電子、イオン、(X)線、中性子などのエネルギー量子が持つ情報を多次元的かつ精密に測定する革新的システム開発とそれらを基にした量子計測応用技術の高度化研究を行っています。

「卒業生へ・・・」

井口研究室を卒業された先輩方の伝統を守り、日々の学校生活は当然のこと、出張実験等学外においても昼夜問わず精一杯がんばっています。昼と夜の優先順位に疑問を感じたこともありましたが、今ではすっかりなじむことが出来ました。年末・GW以外でも機会があれば気軽に研究室にお越しになってください。一緒に食事するのを一同楽しみにして

います。

[エネルギー環境工学講座] (原子核工学専攻第 4 講座)

3781/3782 飯田 孝夫 山澤 弘実 森泉 純

エネルギー生産・消費にともなう種々の環境問題について、汚染物質動態把握・予測と放射線被曝防護・低減化を中心課題として、観測、室内実験、数値実験を駆使して研究しています。

「卒業生へ・・・」

最近研究室にいらっしゃる卒業生の方が少ないので、ぜひ研究室に遊びに寄ってください。6号館周辺も、玄関前の松の木がとうとう1本も無くなってしまったり目の前に高い建物が建設中だったり、名大構内の様子もこの数年で大きく変わっています。名大前の地下鉄も、ようやく開通します。6号館自体も、耐震補強工事で様変わりするかも。

[核燃料サイクル工学講座] (原子核工学専攻第 5 講座)

3783/3785 山本 一良 津島 悟 小林 登

核分裂炉および核融合炉の燃料サイクル確立、とくに熱拡散法、水蒸留法による水素同位体分離、化学交換法によるリチウム同位体分離、超臨界流体抽出などの実験および解析に力を入れています。

「卒業生へ・・・」

本年度から津島悟助教授を研究室にお迎えして、研究室内はより活気あるものになってきました。また昨年同様に実験や輪講、ミーティングなどは環境量子リサイクル研究センターとともにおこなっているので多くの先生がたから指導が受けられ、皆充実した研究生生活を送っています。

[先端的エネルギー変換材料講座] (理工科学総合研究センター第 5 講座)

5204/5204 松波 紀明

機能性材料と量子ビームの相互作用の基礎および応用研究、イオンビーム高度分析、量子ビームによるナノサイズ制御・材料機能制御の探索、先端的エネルギー変換材料を含む新機能材料創成に関する基礎研究。

[先端的エネルギー源材料講座] (理工科学総合研究センター第 6 講座)

4689/3779 長崎 正雅

固体材料の物理化学的性質、特に固体材料中の原子の移動や熱の伝導などの輸送現象と固体の組成や構造との関係を実験的に明らかにし、新しい機能材料を創製することをめざしています。

[粒子線物性工学講座] (併担、結晶材料工学専攻第 2 講座)

4683/5155 曾田 一雄 八木 伸也 加藤 政彦

新しい機能性材料を開発するため、高エネルギー量子ビームを用い、機能性材料の原子配列・電子構造と物性、材料表界面における原子・分子の相互作用と反応について研究しています。

[原子核システム工学講座] (併担、エネルギー理工学専攻第 2 講座)

5419/4692 久木田 豊 辻 義之

原子核エネルギーシステムの安全性と経済性の向上をめざして、気液混相流や液体金属の熱流動、気液界面現象、乱流の普遍的スケーリング則やカオスについての研究を行っています。

「卒業生へ・・・」

人数が多く狭かったあの研究室も今はのびのびと過ごせる広い空間となりました。

今年は四年生が三名と他研究室から M1 が一名、新メンバーとして加わり、例年通りのにぎやかな研究室となっております。卒業生の皆様、名古屋にお立ち寄りの際には是非研究室に遊びにきてください。研究室メンバー一同心よりお待ちしております。

[加速器応用核物理学講座] (併担、エネルギー理工学専攻第 4 講座)

3843/3844 河出 清 山本 洋 柴田 理尋

加速器、原子炉のイオン、中性子ビームを駆使した未知原子核の探索、不安定核の構造、崩壊様式の解明、核融合炉材の放射化断面積の測定を通して、放射線・中性子高度利用、核データベース構築を目指しています。

「卒業生へ・・・」

当研究室は最近シミュレーション部門を強化しました。それにより、これまで解析が困難だったものに光が見えてきました。特に熱中性子捕獲ガンマ線測定に関しては、10年以上に渡って行った実験の解析が急ピッチで進んでいます。

また、今年は4年生2人の他に他大学からの進学者が1人、3年生からの飛び級での進学者が1人の計4人が新しく研究室のメンバーに加わりました。このため、更に活気のある研究室となっています。

[プラズマ基礎工学講座] (併担、エネルギー理工学専攻第 6 講座)

4592/4592 佐藤 紘一 庄司 多津男 有本 英樹 坂和 洋一

核融合炉心プラズマの閉じこめ特性の改善をめざします。そのために、能動的・非接触のプラズマ計測法を開発し、それをを用いてプラズマの輸送現象、非線形現象を解明します。

[エネルギー機能材料学講座] (併担、量子工学専攻第 2 講座)

4682/3779 松井 恒雄 柚原 淳司 岩崎 航太

核分裂・核融合炉用、燃料電池用、熱電変換用材料、同位体制御新エネルギー機能材料を対象として、放射光や中性子を用いた構造・物性の実験的研究および高温熱物性の測定・解析を行っています。

「卒業生へ・・・」

松井研では職員構成の大きな変化がありました。平成15年度から長崎先生が理工総研の教授に、柚原先生が核燃料管理施設の助教授にそれぞれ昇任されました。また、昨年度半ばには東北大学出身の岩崎航太氏を助手として迎えました。松井研にかかわる職員

は総勢 5 名になり、充実の一途をたどっています。

研究室の設備としてはイオンビーム蒸着装置の 2 台目が入荷しました。RI 実験室の中も徐々に整理が進んでおり、ずいぶんと環境が改善されました。「お泊り」がなくなる日も近い! ?

環境量子リサイクル研究センター

5937/5936 榎田 洋一 有田 裕二

先進的なリサイクル工学の確立を目指し、廃棄物の中に含まれる有用元素を精密分離によって回収するとともに、回収した元素を用いた新しい機能性材料創製を行うことを研究しています。

「卒業生へ・・・」

本年度から事務室は研究支援推進員の刀禰さん、事務補佐員の服部さん、非常勤研究員の澤田さんと全員が女性の方で構成されています。したがって男子禁制の場となりました・・・うそです。毎朝刀禰さんが入れてくださるコーヒーなど飲ませていただいております。学生部屋では学生の人数が増え、実験室も装置が増え、皆で和気藹々と楽しく研究しております。名古屋にお越しの際は、気軽に研究室に遊びにきてください。

支援組織	技術室	052-789-5871
	事務室 (材料・原子核工学教室担当)	052-789-3399

会員の声

新任のご挨拶

山澤 弘実

(原子核工学専攻第 4 講座、助教授)

既に 1 年以上過ぎておりますが、改めて名原会の皆様はこの紙面を借りて着任のご挨拶を申し上げます。昨年 4 月から原子核工学専攻第 4 講座(飯田研究室)に助教授として勤めております。前任地の日本原子力研究所環境科学研究部では、SPEEDI 開発等の緊急時対応研究や環境関連の研究に従事しておりました。原研に 16 年間在職したとはいえ学生時代の専攻が地球物理学であり原子核関係については学部学生時代に物理学科と共通の授業までしか系統的に学んでいないこと、大学のスタッフとしての経験がないこと、名古屋には以前学会で数度訪れた程度で全く馴染みがなかったこと等々少なからず逡巡があったのが正直なところですが、一所で安定した生活に浸かってしまうにはまだ早いとの思いから名古屋大学に移ることを決心しました。来年度からの法人化、大専攻化に加え、本年度に山本一良先生がリーダーの COE プログラム「同位体が拓く

未来」が採択されたことにより、私の力量以上の舞台ができつつあることを実感し、覚悟を新たにしているところです。

大学に移って新たに経験したのが教えるプロセスです。「教える」と言うよりは「理解してもらう」の方が私の実感に近いかもしれません。担当している100人ほどの大人数を相手にした講義では、教え方と浸透度が常に気に懸かります。新たな概念や仕組みなどを授業で取り上げる際に、それを理解してもらうためには私の頭の中で理解している内容をそのまま表現するのでは不適切か、不適切ではないにしろ不十分であることが多いことに気づかされました。自分の頭の中ではきわめて明確かつ体系的なのですが、その理解された体系が必ずしも教えることに適した体系ではないようです。自分の理解が現在に至った過程を振り返ってみれば、初めから体系立てて明確に理解していたのではなく、試行錯誤の結果として得られたものですから当然のことかもしれません。どのようにしたら「理解してもらえるか」のスキルが、経験の多い諸先生方に有って、これから私が得なければならないものの一つと考えています。

UEFA ? UAEF??

加藤善久（平成6年卒）

第五講座卒業生

昨年(2002)春、原子力産業会議主催の欧州調査団(第9回 原子炉システム水化学国際会議・放射線化学ワークショップ参加欧州調査団)の一員として、スペイン、フランスに出張させていただきました。スペインでは発電所訪問を行い、フランス(南仏；アヴィニオン)で国際会議に参加しました。その期間のスペインでの休息日が自由行動であったので、世界No.1クラブと言われるレアル・マドリッドの本拠地、サンチャゴ・ベルナベウスタジアムに行きました。スタジアムの見学の際、客席からだったのですが、鳥肌がたったことを覚えています。感動で鳥肌がたったのは、1993年10月、卒業研究のデータ集めの実験の合間に見た日本vs韓国のカズの決勝ゴール以来でした。

そのレアル・マドリッドが現在、昨年に引き続き、UEFAチャンピオンズリーグの準決勝第1戦をホームで闘い、2-1と勝利しています。

ところで、UEFAとは、ヨーロッパサッカー連盟のことで、Union des Associations Europeennes de Footballの略称だそうですが、UAEFではなくUEFAなのが不思議です。テレビのニュースでは、略語というのは当たり前のように使われていますが、正式名称が説明されることは少ないと思います。数年前、正式名称を認識していないアナウンサーが、JCOとJOC(日本オリンピック協会)を言い間違えているのをよく聞きました。さぞJOCの方は迷惑したのではないのでしょうか。略語は便利なものですが、分野が違えば意味も違うので、(言い間違いは論外ですが)報道する側は注意をして欲しいと思います。ちなみに日本の属するアジアサッカー連盟はAsian Football ConfederationでAFCと略されています。

光歳時記

影山一巳（平成 7 年卒）

浜松ホトニクス

つい昨日、私が勤める浜松ホトニクス建家内の P M T（光電子増倍管）活性排気台横で、外部カメラクルーが撮影を行っていた。NHKのTV番組「プロジェクトX」の取材班だったとか。

去年 2 人の日本人がノーベル賞を授与され、その後ニュース番組や新聞が挙って、これらのトピックを報道していた。そんな最中、小柴さんの研究テーマが紹介される際、しばしば P M T という言葉も紹介されていた。

実はこれ、浜松ホトニクスが取り扱っている製品の 1 つなのだが、今迄全くと言っていいほど世間の知名度は低かった。勿論、光を利用した分析や計測などアカデミックな分野では、ある程度名前は売れていたが、全く異なる業界の人からは、「あれ、何？」とよく質問をされた。簡単に言えば光技術を利用した製品なのだが、これがなかなか説明しにくい。

今から 4 年前。結婚相手の親族に自己紹介をする際に、会社説明の最中 P M T が登場したのだが、民生品で利用されることが殆どなく、世間一般には馴染みが薄いので、説明に非常に苦労した覚えがある。

「ノーベル賞受賞」、そして話題の良し悪しはあるが少し遡れば「カミオカンデの事故」の報道から、学会・ワークショップの展示ブースでは、P M T についての質問・問い合わせが急激に増え、漸く世間から認知されるようになった。

今は 2 1 世紀。人類のフロンティアとして「ハイテク」や「ナノテク」が脚光を浴び、2 0 0 1 年には情報通信技術に関連して I T 基本法が施行され、イノベーションが急速に進んでいる。光技術が時代の寵児となるのも間近かもしれない。

はじめまして

岩崎航太

松井研究室助手

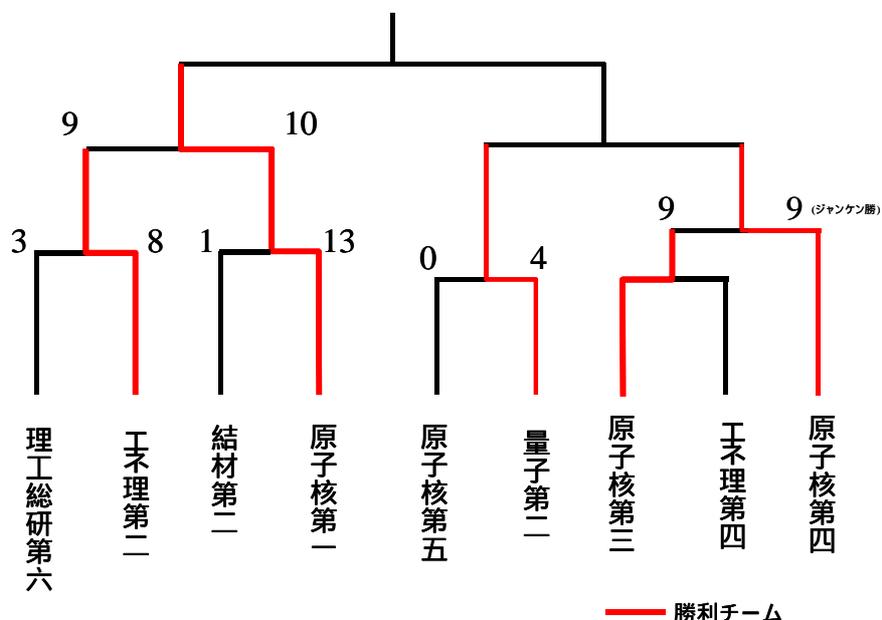
東北大学で学生を 9 年、ポスドクを 1 年半と 1 0 年半過ごした仙台を離れ、平成 1 4 年 1 0 月から松井研で助手としてお世話になっております。もともとの出身は南知多町の内海ということで地元に戻ってきた格好になるわけですが、高校卒業まで知多半島の外にあまり出かけることのなかった私にとって名古屋はほとんど知らない街同然で、その大きさに慣れるのにまだまだ時間がかかりそうです。街の規模としては仙台の 5 倍以上はありそうで、人口が 2 倍（名古屋：約 2 0 0 万人、仙台：約 1 0 0 万人）になると街のスケールがここまで変わるのかと驚いております。名古屋大学に来てまず感じたのは、とにかく広いということでしょうか。敷地のあちこちに建物が並んでいるおかげで、中央図書館や事務室などへの学内移動はいつも悩みの種になっています。どうもこれは 6 号館だけが工学部の中でひととき離れた場所にあるのが原因のようですが・・・

また、6号館の古めかしさも特筆すべきところではないでしょうか。ポストク時代に過ごした建物も、廊下の窓が錆び付いて閉まらず吹雪のあとは屋内でも積雪が見られる状態でしたが、廊下の窓は開きっぱなし、部屋はすきま風というよく似た環境にまた巡り会えたことには何か運命めいたものを感じてしまいます。仕事に関しては、学生の指導や先生方のお手伝いなど初めて経験する仕事が多く、まわりの方々に迷惑をかけることもしばしばで、よりいっそうの努力を心がけなければと感じております。まだまだ力不足ですが、原子核工学教室を盛り上げられるように力を尽くす所存ですので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

核院会便り

核院会では毎年様々な催し物を行っています。昨年も名大祭・各種スポーツ大会(ソフトボール・マラソン)などの活動が行われました。昨年度のスポーツ大会の結果は以下のような結果になりました。ソフトボールの試合はトーナメント形式にしましたが、決勝まで消化することができなかったのが心残りです。マラソン大会も例年同様に1月最終週土曜日に行われ、特に田辺研は総合一位、区間賞二人と大活躍でした。

・ ソフトボール



・ マラソン大会

総合成績

- 1 位 理工総研第六(田辺研)
- 2 位 原子核第五(山本研)
- 3 位 エネ理第四(河出研)

区間賞

- 1 区 宇留賀 和義さん : 原子核第五(山本研)
- 2 区 見城 弘章さん : 原子核第一(山根研)
- 3 区 野澤 純一さん : 理工総研第六(田辺研)
- 4 区 杉山 一慶さん : 理工総研第六(田辺研)

お知らせ

1. 各種証明書

卒業・修了証明書等、各種証明書をご入用の際は、直接工学部教務課へご請求下さい。その際には、下記のことを同封してお申し込み下さい。

- ・ 長型 3 号 (ほぼ 120 × 235mm) が入る返信用封筒
- ・ 厳封か否かの表示
- ・ 学科、卒業年
- ・ 氏名、生年月日
- ・ ローマ字綴り (英文の場合)

編集後記

「独立行政法人化」をいよいよ来年度に控え、本学工学研究科も大専攻・大講座制へと大規模な再編成がなされるようで、これにともない原子核工学教室も荒波にもまれているといった状況です。そんななか、原子核工学教室を中心にして、本年度 21 世紀 COE プログラムに「同位体が拓く未来」というテーマで採択され、同位体科学の基盤研究分野から応用展開研究分野で中心的役割を果たすべく、これまで以上に努力していかなくてはならないと感じています。卒業生の皆様が誇りを持って「名原会会員」であると言い続けられるよう、職員一同努力してまいりますので、皆様からの暖かい叱咤激励のほど、よろしく願い申し上げます。

(渡辺 賢一)

現役員

会 長	水谷 良亮	(昭和 45 年卒、中部電力株式会社)
副会長	中川 和道	(昭和 47 年卒、神戸大学)
	曾田 一雄	(昭和 52 年卒、名古屋大学)
幹 事	山根 義宏	(昭和 48 年修卒、名古屋大学)
	柴田 理尋	(昭和 63 年修卒、名古屋大学)
	瓜谷 章	(昭和 59 年卒、産業技術総合研究所)
	有田 裕二	(平成元年卒、名古屋大学)
	柚原 淳司	(平成 3 年卒、名古屋大学)
	森泉 純	(平成 3 年卒、名古屋大学)
	小林 登	(平成 4 年卒、名古屋大学)
	渡辺 将人	(平成 7 年卒、中部電力)
	渡辺 賢一	(平成 9 年修卒、名古屋大学)
支部長		
東京	北野 照明	(昭和 48 年卒、三井造船)
中部	若山 靖記	(昭和 62 年卒、中部電力)
関西	占部 逸正	(昭和 47 年卒、福山大学)

名原会・名原会ニユース・名薄に関する問い合わせ先

〒464-8603 名古屋市千種区不老町 名古屋大学工学部
物理工学科(系)量子エネルギー工学コース 名原会
TEL 052-789-5310 (渡辺 賢一)
e-mail k-watanabe@nucl.nagoya-u.ac.jp

量子エネルギー工学コース事務室

TEL . 052-789-3399

FAX . 052-789-3225

教室ホームページ <http://www.nucl.nagoya-u.ac.jp/>